

先端技術チームの沿革

1949年(S24)に土木研究所 技術員養成所（1953年(S28)沼津支所に改称）が設置され、建設機械の技術員養成とともに、各種機械の性能試験、機械土工の試験研究が始まった。

そして、1960年(S35)に土木研究所 千葉支所の発足と同時に機械研究室（沼津支所 性能試験研究室の後身）が設置され、本格的な建設機械・機械設備に関わる研究活動が始まった。

その後、この機械研究室を母体として、2001年(H13)の独立行政法人土木研究所の発足に伴い、従来の「建設機械・機械設備」に加え、「土木に関する高度な技術」に関する調査、試験、研究並びに土木技術の開発及び指導を行うことを目的とした先端技術チームが設置され、現在に至る。

組織の変遷

1949年(S24)
実検課
機械施工研究室



1953年(S28)
性能試験研究室



1960年(S35)
機械研究室



2001年(H13)
先端技術チーム

先端技術チームの沿革

1945
(S20.9)

海軍施設本部野外実所（沼津市）の施設を引き継ぎ運輸省運輸建設工事本部に技術員養成所を設置

1948
(S23.7)

建設省建設工事本部技術員養成所に改編

1949
(S24.7)

土木研究所に建設省建設工事本部技術員養成所を合併

※技術員養成所の組織

庶務課、指導課、**実験課**（S26年度）「土木研研究所50年史」（S47.11）

庶務課、養成課、**機械施工研究室**（S24.7）「土木研研究所70年史」（H4.10）

1953
(S28.7)

技術員養成所を沼津支所と改称

※沼津支所の組織：庶務課、養成課、**性能試験研究室**、施工研究室「沼津支所の概要」（S29.3.31）

1960
(S35.4)

千葉支所（千葉市穴川町）を設置、沼津支所を機械施工部として千葉支所に統合、機械施工部に機械研究室を設置

※機械施工部の組織：**機械研究室**、施工研究室、土質研究室 機械施工部の開設当時

1964
(S39.10)

日本建設機械化協会（現日本建設機械施工協会）の建設機械化研究所（現施工技術総合研究所）設立に伴い、建設機械性能試験業務を移譲

1979
(S54.4)

筑波への研究所の移転統合

※機械施工部の組織：**機械研究室**、施工研究室、土質研究室、動土質研究室 筑波移転当時（動土質研究室： S48設置）

先端技術チームの沿革

1993
(H5.4)

機械施工部と地質化学部を材料施工部に改編

※材料施工部の組織：**機械研究室**、施工研究室、土質研究室、化学研究室、コンクリート研究室
材料施工部の開設当時（地質化学部の廃止と環境部の設置に伴う改編、旧機械施工部の動土質研究室は地震防災部に、旧地質化学部の地質研究室は環境部に移動）

2001
(H13.4)

独立行政法人土木研究所の設立に伴い技術推進本部（総括研究官、特命事項担当班、**先端技術チーム**（旧材料施工部機械研究室）、施工技術チーム（旧材料施工部施工研究室）、構造物マネジメント技術チーム（旧材料施工部コンクリート研究室））を設置

※国土技術政策総合研究所の高度情報化研究センター情報基盤研究室と総合技術政策研究センター建設システム課が旧土木研究所の機械研究室と施工研究室の所掌の一部を継承

2021
(R3.4)

先端技術チームに上席研究員（特命事項担当）を配置、班体制（ロボット班、機械設備班）を開始

2024
(R6.4)

先端技術チームに電気通信を専門とする主任研究員、研究員を配置、情報通信領域の研究を開始

2025
(R7.4)

先端技術チームに電気通信を専門とする上席研究員（特命事項担当）を配置、ロボット班、機械設備班、情報通信班の3班体制を開始